

「見えない歪み」を可視化する 親と子の 幸福な社会参加のために

いじめ、うつ、介護、現代社会の縮図とも言える様々な困難を経験しながら、2児の子育てに奮闘されている、株式会社トラストボールアプリシエイト代表取締役の小島佳苗さん。現在の仕事を始めたきっかけ、子育て環境に潜む問題について伺いました。

レポート：イプラス脳力開発トレーニング協会 住友 大我

株式会社トラストボールアプリシエイト

〒247-0013 神奈川県横浜市栄区上郷町262-32 7-507

TEL/FAX : 045-382-9081

URL : <http://trustball-ap.com/>

E-mail : info@trustball-ap.com

子どもたちのために 私たちができること

心、体、環境のいいバランスを保ち、子どもの健全な成長をたすける活動をしています。

※体動かし隊長！が活動中！ 体動かし事業

遊具点検：思い切り体を動かせる環境作りの為の「点検・修繕」
運動：体を動かすことで伝える「運動の楽しさと体力作り！」

※子供を守る！環境づくり 環境事業

砂場除菌：幼児期砂場遊びを促進する「除菌丸」

抗菌：菌やウイルス・臭いなどを分解 体にも優しい「光触媒」

※ママの憩いの場所を！ ふわママ事業

カウンセリング：カラーグラスセラピーetc.

アロマトリートメント：ママのメンタルセラピールームetc.

その他：パーソナルカラー、スポーツメンタルetc.

東北沢(東京都世田谷区)で、0歳からのスポーツ教室フィジカルパーク、ママの相談室を近日オープン予定。

Facebook 青空コート

Facebook 夢をkanaeるメンタルセラピー

Facebook ~mama'space~ ふわふわの森cafe

Facebook 0歳からの運動教室



小島 佳苗 (こじま かなえ)

株式会社トラストボールアプリシエイト 代表取締役

幼稚園から通う玉川学園では中・高とテニス部部長。学生時代は選手として全日本予選に出場(当時日本ランキング保有)する傍らコーチとして指導に携わる。引退後に学んだ色彩学を生かしてカラーリストのいる雑貨屋さん「ふわふわの森cafe」をオープン。

いじめ・人間関係・夢・受験などにがんばるすべての人を応援するウェブサイト「雨降って夢kanaeる〜ふわふわの森cafe」を日々更新(東京開催の「ママのメンタルセラピールーム」に関する情報は同サイトで随時掲載)。



「ママの憩いの場所を！ふわママ事業」の活動拠点は、この「ふわふわの森cafe」です。「お子さんがいてもおやつを食べながら雑貨を楽しむ」

「女性こそ素敵に！ママが幸せに！」
JR根岸線の港南台駅から歩くこと20分ほど(私の感覚です)、素晴らしい自然環境に囲まれた、ご自宅兼cafe(ふわふわの森cafe)を訪ねました。窓の外に広がる木々、目の前の小学校：取材当日、見事な快晴だったことも手伝い思わず空を見上げたくなるような清々しい気分になりました。

「孤独な日々、ふわママ事業に込める思い」
コンセプトにある通り「子を持つ親のため」という思いが込められたcafeですが、

「みましよう！」をコンセプトに、定期的なママ交流会の開催、カラーリストの観点を取り入れた雑貨の販売、また、カウンセリングの中ではMWT(思い方の練習など)の紹介もされています。cafeの利用は、授乳をしながらでも子どもを遊ばせながらでもOK。また、雑貨販売はWEBでも受け付けているようですので、興味のある方は、ぜひ覗いてみて下さい。
<http://huwahanomori.com/>

そこには小島さんの経験が反映されています。第一子を出産した後、子育てに専念する中で失われた社会との接点。閉じた環境の中で、悩みも喜びも、ほぼ一人で完結する日々。同年代の友人が、子育てを意識することなく楽しそうに過ごす姿を見て羨ましく思う時もあったそうです。

家族の言葉、MWTとの出会い

小島さんが、MWT指導者1級資格を取得したのは2012年7月。同年3月には、ビジョントレーニング(以下VT)指導者集中講座も受講しており、現在ではMWTとVTの双方を取り入れた活動をされています。

そうして、いつしか子育てが辛く苦しいものになる中「同じような孤独感を味わう親が、自分以外にもきつという。その人達のためにも、この思いを共有できる場所があれば子育てはもっと楽しくなる」という考えが芽生えました。孤立した境遇に身を置くことで視野が狭まり、そのことによって益々追いついてしまいう状況は誰にでも起こり得るものです。そうした状況に對して、様々な機会を提供しながら、少しでも気持ちを開放する力になりたいという思いから「ふわママ事業」は展開されています。

時代が変われば、子育ても変わります。家族形態など、そもそもの前提条件が変わることもあるでしょう。しかし、いつの時代でも子どもを持つことが、立場の弱い人間を作

現在、2012年に体調を崩された実父のリハビリ・



介護も経験されているそうですが、そんな自分だからこそ伝えられることがある、寄り添える人がいるという思いを原動力に活動の幅を広げています。

一つ付け加えておきますと、MWTは良質な柱を作るようなもので（表からは見えなくても）それを使うことで骨組みの強度が更に増すように、MWTを実践した上でVTLのような方法を取り入れれば、より一層の効果が期待できるはずです。

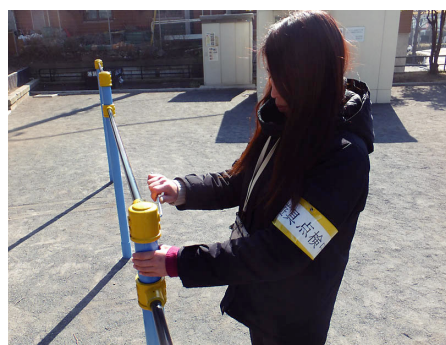
遊具点検という仕事

（株）トラストボールアプリシエイトの中心事業である、公園の遊具点検について興味深い話を伺うことが出来ました。これまで、横浜市内の約800箇所（約）の公園で点検を実施したそうですが、実際に点検すると、基礎（土台の無い遊具（簡単に言えば地面に突き刺しただけ）、研磨せずに表面を塗装しただけで修繕を

終えている遊具（触るとすぐに塗装が剥げる）、地上部分しか点検していない遊具（土を掘り返して確認すると基礎が腐食していることもある）など驚くような実態を目にすることがあるそうです。

この取材の前日、愛知県で遊具事故が発生しました（Facebookで小島さんが紹介）。事故の概要は、某緑地のアスレチック遊具から飛び出たステンレス製のボルトに8歳の男の子が左こめかみ部分をぶつけて頭蓋骨が陥没、全治1年の診断が下されたというものです。国土交通省（以下

国交省）の安全管理指針では、遊具からの突起物を3ミリ以内に抑えるよう定めているところ、このケースではボルトが15ミリ飛び出していたそうです。同緑地では、指定管理



（表）都市公園における遊具の設置経過年数

	平成19年度	平成22年度
5年未満	7.5%	9.2%
5～10年未満	9.9%	9.2%
10～15年未満	10.8%	10.5%
15～20年未満	10.4%	10.5%
20～25年未満	11.3%	10.2%
25～30年未満	11.8%	11.3%
30年以上	19.9%	25.0%
不明	18.3%	14.1%

者である造園会社が月1回の遊具点検をしているようですが、検査の段階では「気付かなかった」と報道されています。

憶測で、あれこれ語るのは混乱を招くだけですが「気付かなかった」としても調べた時の記録が残っていれば「気付かなかった」ではなく「問題がなかった」という類の発言になるのではないのでしょうか。ましてや、基準の5倍の数字です。

遊具の現状と対策

（国交省の資料より）

参考までに、国交省が公表する遊具の設置経過年数の状況について紹介します（※1）。「都市公園における遊具の安全管理に関する調査の集計概要について」（平成24年3月

29日公表）数字は平成23年3月31日現在）によると、遊具が設置されている都市公園及びその他の公園13541箇所において、設置後20年以上が経過した遊具は21325基あり、遊具全体の46・5%を占めています（表の平成22年度を参照）。

そして、同資料の「今後の対応」を読むと、前回調査（平成21年1月9日公表）数字は平成20年3月31日現在の「今後の対応」と、ほぼ同

内容が記載されていることに気付きます。詳しくは、資料をご確認いただくとして、簡単にまとめれば老朽化対策の促進（遊具の更新等）と安全点検の強化が掲げられています。

そこで、設置経過年数について前回調査の数字を確認すると、設置後20年以上が経過した遊具は28%に達し、遊具全体の43・1%と最新調査よりも低い数字であったことが分かります（遊具が設置されている都市公園及びその他の公園12953箇所が対象）。また、（表）をよく見ると20年以上の中でも30年以上の割合が、それ以外の区分よりも明らかに多い上に最新調査では増加

しています（※2）。

一概に、古い＝悪いわけではないとはいえ、老朽化が進む反面、対策が停滞していることを窺える結果です。いずれにしても、遊具点検は、万が一のことがあれば重い責任を負わされる可能性もあるわけですから（だからこそ意義深いという言い方も出来ると思います）やはり多大な覚悟を要する仕事に違いないでしょう。

共に学び、共に歩む

紙幅の都合もあり、取材で伺った内容の一部を纏めたに過ぎませんが、改めて自分の目に入らなかった問題を知る機会となりました。

自分が見たくないものは透明化して見て見ぬ振りをする、誰かの唱える理想論で物を語る、これらは現状を肯定する態度でしかありません。その一方で、大文字の正義を振りかざしながら意識の高い振りを装い（自意識の強さを隠蔽し）、観客席から批判を続けることは変化を望まない心情表明に過ぎないでしょう。もしも、本気で疑問を感じ解決する意志を持つならば、グラウンドに出て戦う必要があります。

ただし、そこで忘れて欲しくないのは、一人で戦う必要も完全無欠の戦いをする必要もないということです。悩んでも喜びも分かち合える、誰もが誰かの力になれる。そう心から信じて実行できる社会こそ、次の世代に伝えるべき社会であると思います。

（※1）国交省では、遊具事故の防止と都市公園における安全管理の一層の強化を図るため、全国の都市公園等における遊具の設置状況や安全点検の実施状況等について、平成10年度から3年ごとに継続的な調査を実施している。

（※2）平成20年8月に「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」を改訂、また、平成21年度より「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業」を創設したが、老朽化対策だけではなく安全点検に関しても明確な増加は見られない。「日常点検の頻度」は変化なし（3.8回/月→3.8回/月）、「定期点検の頻度」は微増（2.0回/年→2.1回/年）、「全遊具」の中で「修理・撤去等の安全確保措置が必要となった遊具」は減少（42,081基 9.5%→39,720基 8.6%）、「要措置遊具」に対して行われた「修理」19,895基 47.3%→16,729基 42.1%）、「更新」4,857基 11.5%→3,901基 9.8%）、「撤去」5,646基 13.4%→2,628基 6.6%）は全て減少。数字を見る限り安全な遊具が増えたと解釈できる。％は「調査対象」に対する「該当項目」の割合。